

SEIREI CHRISTOPHER UNIVERSITY

学報

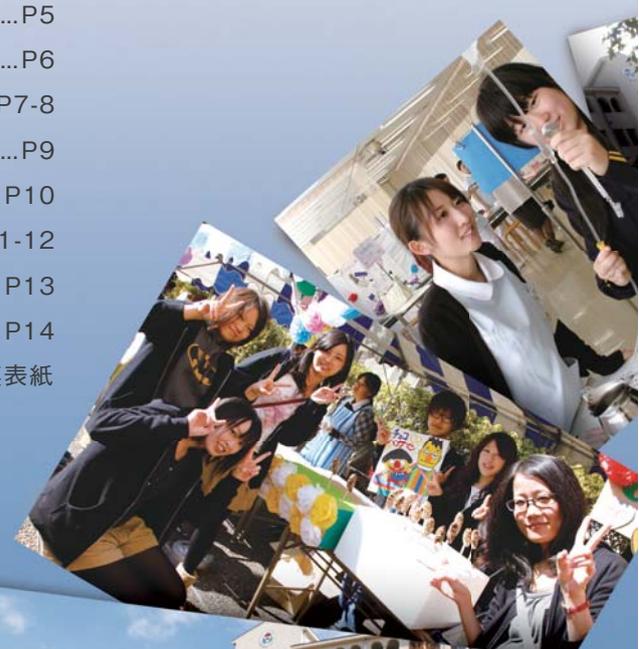
SEIREI CHRISTOPHER UNIVERSITY REPORT

2012.12.20

Vol. 40

C O N T E N T S

本学の災害対策P1-2
5号館完成に向けて／聖書のことば...P3
クリストファーニュース..... P4
就職支援 P5
卒業生からのメッセージ..... P6
聖灯祭&ホームカミングデー.....P7-8
学生支援 P9
後援会 P10
聖隷学園だより.....P11-12
私の教育・研究 P13
2012年度 研究助成 P14
クリストファーニュース／国際交流... 裏表紙



保健医療福祉の総合大学

聖隷クリストファー大学

本学の災害対策



本学では大地震が発生した際、在学生の身の安全の確保を第一に考えています。

本学の1号館、2号館、3号館および5号館(2013年1月竣工予定)は「鉄筋コンクリート(RC)構造・鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)構造」であり、倒壊の危険性は極めて低い*と言えます。そのため、在学生には、発災時においても校舎自体は安全であり、安心して大丈夫

であること、また、決して慌てて外に飛び出したりせず校舎内において危険を回避することを周知徹底していく考えです。

校舎内にて人員点呼を行い、在学生の無事を確認した後は、大学周辺の状況が明らかになり交通機関等の安全が十分に確認できるまでの間、安心して校舎内に留まることができるよう準備をしています。

※静岡県の応急危険度判定士による実地調査、構造計算書および地質調査書の確認の結果、本学1・2・3・5号館においては、倒壊の危険性は極めて低いとの見解を得ています。更に5号館では免震構造を採用しています【P3参照】。



本学では大地震に備えて、大きく4つの項目に集約し、十分な対策を進めています。順にご紹介します。

1 ライフラインの確保

■ トイレ

災害時においても1・2・3・5号館で水洗トイレが使用できるようにしています。浄化槽は非常用電源(中型発電機)との接続工事を完了し、稼働できるようになっています。

更に、万一配水管が破損した状況等を想定し、使い捨て便袋を1,500枚準備しています。



中型発電機



■ 生活用水(飲料水)

高架水槽や受水槽の水を使用します。万一水槽が破損した場合でも学内に井戸があり、防災用自家発電装置によって汲み上げた井戸水を生活用水(飲料水)として利用することができます。



井戸



防災用自家発電装置

■ 通信網

停電時においてもパソコンおよびサーバーを使用できるよう、サーバー室内において非常用電源(小型発電機)との接続工事を完了しています。また、高出力デジタルトランスシーバーや手巻き充電式ラジオを準備しています。



サーバー室内の非常用電源(上)と小型発電機(下)

■ 照明

停電対策用の照明として懐中電灯やLEDランタン、ケミカルライトを多数準備しています。また、広範囲を照らすことが可能なスタンド式のLED照明および発電機も準備しています。



2 備蓄品の確保

■ 食料・飲料

約1,500名分のカンパンと飲料水を防災庫に備蓄しています。これらの他に、学生食堂の通常在庫の米を、無理の無い範囲で増やしています。備蓄食料がなくなっても約4,000食は確保できる想定です。調理用具として、カマド、羽釜、電気炊飯ジャー、ウォータータンク等を準備しています。



■ 運搬車

資材搬送用としてキャリーカート、折畳み式リヤカー等を準備しています。

■ 防寒シート

NASA開発素材の防寒・保温ブランケットを1,000枚準備しています。



■ 救助用具

阪神・淡路大震災時を例にとると、警察、消防署では、救出要請に対して10件中1件しか対応出来なかったことが分かっています。いざという時に自助できるよう、油圧ジャッキ、スコップ、つるはし、ハンマー、パール、ボトルクリッパー、のこぎり、斧、ゴーグル、特殊手袋、マスク、安全靴、担架、多人数用救急箱等を準備しています。

3 学内防災体制の確立

■ 防災マニュアルの策定

発災時における教職員の行動指針を具体的に記した「地震防災行動マニュアル」を策定しています。「災害対策本部」をはじめ、「情報連絡班」「救護班」「消火

班」等7つの行動班を組織し、いざという時に迅速に、具体的に行動できるようにしています。現在、より実践に即したマニュアルとなるよう改訂を進めています。

4 継続的な防災教育

■ 防災訓練

毎年4月に全学防災訓練を実施しています。その中で在学生にはオリエンテーションを通じて避難方法や安否情報システムの入力方法について指導しています。また実際に三角巾を使用した応急手当、負傷者搬送訓練、煙体験訓練、消火器訓練を行っています。教職員は9月にも実践に即した訓練を実施しています。



在学生:毛布を使用した搬送訓練

教職員:心肺蘇生法・AED使用訓練

安否情報システム

大災害の発生時に、全学生・教職員の安否状況を確認するためのシステムを導入しています。在学生には以下の状況が発生した時に、システムに状況を入力するよう指導しています。

- 浜松市内で震度6以上の地震が発生したとき
- 帰省先や旅行先等で震度6以上の地震が発生したとき
- その他、大学から安否情報を入力するよう連絡があったとき

今後も、在学生在が安心して過ごせる“災害に強いキャンパスづくり”に向けて、より一層の災害対策の充実・強化を図ってまいります。

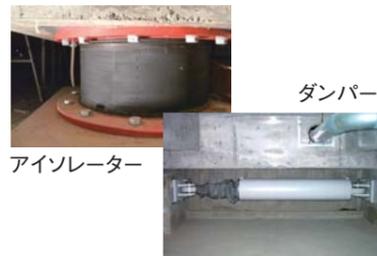
新校舎5号館、完成間近です!

2012年1月より始まりました5号館の新設工事は、皆様のご理解とご協力をいただき順調に進んでいます。11月中旬には覆われていたブルーシートや足場が少しずつ外れ、新校舎が顔を出しました。5号館の特徴的な設備についてご紹介します。



● 免震構造

地上7階建となる新校舎は、大地震にも耐え得るよう、校舎と地面の間に耐震性に優れた免震構造を採用し、地面からの直接的な振動を防ぎます。ゴム板と金属板を交互に重ねた積層ゴムで構成されたアイソレーター(写真左)が校舎の重さや力を支えると同時に地震エネルギーを遮断し、巨大地震をゆるやかな揺れに変え、ダンパー(写真右)により揺れを吸収する仕組みです。



アイソレーター

ダンパー

● 学生ラウンジ

2階部分に設ける広さ90㎡の学生ラウンジにはテーブル・ソファを設け、在学生が休憩場所などとして自由に使用できる憩いのスペースとします。また竣工後に5号館へ移設する歴史資料館(現在2号館2階)スペースの一部を売店(クリストア)／移設)および学生ホールに改修する計画も進めています。



明るい光の差し込む空間です

● 遠隔授業教室(仮称)

5階の1室にはカメラ、マイク、中継および収録用のPCを備え付けて設置し、遠隔授業を可能とする遠隔授業教室(仮称)を設けます。これにより大学院生が①遠隔地においてリアルタイムでの受講が可能になる②収録した講義のビデオ学習ができる③国内外の非常勤講師から学内外にいる大学院生へ講義ができるなど、様々な学習の可能性が広がります。



南側から臨む新校舎(奥)と旧5号館(手前)

3学部合同による授業「専門職連携科目」を行いました

本学ではIPW*(専門職連携協働)を実践できる人材育成のため、2008年度より専門職連携教育プログラムをスタートしました。看護、社会福祉、リハビリテーションの3学部の学生が共に学び、それぞれの専門性を尊重し、相互理解を深めることにより、対人援助職として連携しながら協働できる人材を育成することを目的としています。

今年度、1年次生必修科目「専門職連携の基礎」は9月24日と25日の2日間、4年次生選択科目「専門職連携演習」は9月18日～21日の4日間の日程で行いました。他学部他学科の学生と意見を交わし合い、発表にむけて意見をまとめていく中で、専門職連携についての学びを深めていきました。



4年次生:ロールプレイを用いた発表

1年次生:グループワーク

※IPW: InterProfessional Workの略で、その意味は「複数の領域の専門職者が各々の技術と役割をもとに、共通の目標を目指す協働」のことです(CAIPF: 英国専門職連携教育推進センターの定義)。

週刊東洋経済「本当に強い大学2012」、リクルート「カレッジマネジメント」で本学が全国上位にランキングされました

週刊東洋経済(10月27日号)の特集「本当に強い大学2012」の記事の中で、本学が「就職率ランキング」「資格に強い大学」において上位にランキングされました。

就職率ランキング文系ベスト100では本学社会福祉学部が「全国8位」にランキングされ、本学看護学部は資格に強い大学として看護師合格者数「全国2位」、保健師合格者数「全国4位」にランキングされました。またリハビリテーション学部は就職率ランキング理系ベスト100で薬学部や工学部が上位を占めるなか全国61位(リハビリテーション系では全国18位)として掲載されました。

リクルート カレッジマネジメント(9月1日号)の特集「進学ブランド力調査2012」の記事においては、高校生の大学に対するイメージのランキングが紹介されており、本学は「学生の面倒見が良い」「落ち着いた」「おしゃれな」「上品な」「国際的なセンスが身につく」イメージとして中部地区で上位にランキングされました。



2013年4月より、社会福祉学部「臨床介護福祉学科」を「介護福祉学科」に改定します

社会福祉学部における介護福祉士教育は、「病院専門介護福祉士養成」「介護職管理者養成」「介護系教員養成」の3つのコースを設けて学科名称を「臨床介護福祉学科」としていましたが、介護福祉士養成施設に関わる法改正による環境の変化に沿うため、また受験者とその保護者からより認知されやすい学科名称とす

るため、2013年4月(2013年度入学生)より「介護福祉学科」に改定し、施設やサービス事業者の責任者として「福祉経営を担うリーダー養成」、ケアスタッフの教育・指導の専門職として「人材育成に強いリーダー養成」の2つのコースにしぼって介護専門職の養成を行います。

シリーズ 聖書のことば「長谷川保と聖書」

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」
(ローマの信徒への手紙一・二章一五節)



長谷川保先生が愛用した聖書には、余白を埋め尽くす書き込みがある

私がうれしいときに一緒になって喜んでくれる人がいれば、その喜びはひとしおです。私が悲しんでいるときに一緒になって涙を流してくれる人がいれば、非常に大きな慰めを感じます。人はひとりで生きてゆけるものではなく、家族や友人と共に生きる者です。あなたが存在しているだけで、あなたは他の人々を励まし慰めていることとなります。まして、もしあなたが他の人の喜びや悲しみを共有してくださるのなら、それは何という大きなことでしょうか。

人は支えられて生きる者です。支えられていることを実感するとき、私たちは心に大きな喜びと力を感じます。なにげない励まし

の一言が、落ち込んでいる人の心を明るくしてくれます。小さな動作、ちょっとした言葉が、私たちを立ち直らせてくれます。十分な睡眠を取ることや気分転換に散歩をすることも、私たちの心を強くしてくれますが、なによりも大きな力を与えてくれるものは、家族や友人のちょっとした言葉や思いやりです。この聖書の言葉「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」は、二千年前のパウロという人の手紙の中の一節です。人の心は昔も今も変わりないのですね。

聖隷学園宗教主任 鈴木 崇巨

2012年度

就職支援速報!!

速報2012年度の就職状況

昨年度の就職率は全学部100%でした。看護学部は2012年度も12月時点で昨年度と同様に94%が内定を得ています。社会福祉学部全体では85%が内定を得ており、精神領域等の職場を志望する学生が活動をしています。こども教育福祉学科は73%の学生が内定を得ています。リハビリテーション学部では秋以降に就職活動が始まり、51%の学生が内定を得ています。理学療法学科は静岡県立病院等の公立病院、聖隷

福祉事業団や静岡県内、愛知県内の病院に、作業療法学科は聖隷福祉事業団、静岡県内や東京都内の病院、福祉施設等に内定しています。言語聴覚学科の学生も鋭意活動中です。

就職支援の取り組み

本学は保健医療福祉施設との連携強化を図り、卒業生とのつながりを育て、大学を就職拠点としたネットワークを築くことにより、保健医療福祉の専門職を志す学生の希

望する就職が確実に実現できるように就職支援を行っています。また正課外にも専門職としてのキャリア形成支援と就職支援を行っています。具体的には、「地域で活躍する専門職の講演会」や「卒業生との懇談会」を開催し、学習の中で抱えている専門職としての自身の将来像が一層明確になるように働きかけます。また「地域の保健医療福祉施設の採用担当者と本学教職員との情報交換会」や「卒業生を対象としたホームカミングデー」の開催、「求人説明会の学内開催」等、就職支援の充実を図っています。

“卒業生と在学生との懇談会”

就職活動を開始する3年次生を対象に将来目標の確立、大卒で自分の進路を決めることを目標にしています。学生が様々な進路(就職)について具体的なイメージを持ち、行動へと踏み出せるよう、実際に保健医療福祉施設で活躍している本学卒業生に話を聞きます。

看護学部

病院、施設、地域の現場で活躍中の卒業生から直接話を聞き、看護領域ごと(内科、外科、小児、保健師、養護教諭など)の特徴や仕事内容、求められる資質等について理解し、進路に対する具体的なイメージを深めます。昨年度は3月5日に実施し、33名の卒業生にお越しいただきました。今年度も3月に実施する予定です。



卒業生との懇談会

社会福祉学部

福祉専門職としての仕事かどのようなものか、学生時代にどんなことを学ぶべきか、何をしておくべきか先輩の話をお聞きします。また先輩がどのような就職活動をしたのか、また実際に働いてみての様子等、就職活動を始めるにあたり不安や心配に感じていることについて情報をもらう場です。今年度は11月24日に開催し、5名の卒業生からお話を伺いました。



福祉の仕事報告会

リハビリテーション学部

リハビリテーション学部は学科ごとに行っています。専門職としての具体的な仕事内容やキャリアパス、求められる人物像等について学びます。理学療法学科は8月6日に1名、作業療法学科は8月8日に3名の卒業生に講演をしていただきました。言語聴覚学科は3月に卒業生による講演を実施する計画です。



作業療法学科:就職講演会

卒業生からのメッセージ

様々な職場で専門職として活躍している本学卒業生からメッセージをいただきました。

“在学時は不安や悩む事もありました。
今は「ST(言語聴覚士)になって良かった」と患者さまの笑顔でそう思います。”



公立森町病院

言語聴覚士 松浦 玲奈さん
まつうら れいな
リハビリテーション学部
言語聴覚学科
2009年度卒業

Q1.現在の仕事内容・魅力・楽しさについて教えてください

現在は失語症、構音障害、高次脳機能障害、嚥下障害のある患者さまに対し訓練・評価を行っています。患者さまの笑顔が私の力になり、毎日たくさんの「笑顔」に囲まれ仕事に励んでいます。また、当院は私が就職した

年に言語聴覚療法が開設となったため、立ち上げの仕事も日々奮闘しながら行っています。「患者さんがむせてしまうのだけれどどうすればいい?」と他職種の方から頼りにされることも専門職としてのやりがいを感じています。

Q2.今の領域・分野を選んだきっかけはなんですか?

臨床実習を小児・成人の医療分野で行い、多くの学びを得た事がきっかけです。幅広い分野の様々な患者さまやスタッフとの関わりから日々新たな発見や学びを得ています。また、実習中に一人の患者さまと数週間関わりを持ち、評価から訓練し回復する過

程で共にその喜びを体感できたことも急性期から回復期の領域を選んだきっかけになりました。



“こどもたちの成長がわたしの喜び”

Q1.現在の仕事内容・魅力・楽しさについて教えてください

今、私は2、3歳児のクラスの副担任です。仕事内容は、保育活動におけるこどもへの補助や掃除等の保育環境を整えることが主なものです。最近ではこどもの生活に関する指導案を書くなど、日々が新米保育士としての勉強です。保育士の仕事の魅力は

なんといってもこどもたちと関われることです。大変なことも多いですし、疲れることもあります。こどもたちと関わっていくことの楽しさ、やりがい、こどもたちの日々の成長を見ることができ喜びがはるかに上回っていると感じています。

社会福祉法人住吉会
住吉第二保育園

保育士 一木 雅子さん
いっき まさこ
社会福祉学部
こども教育福祉学科
2011年度卒業

Q2.今の領域・分野を選んだきっかけはなんですか?

保育士を選んだきっかけは、こどもの頃からの夢だったからです。小学校の担任の先生が厳しくも優しい方でした。私はそんな担任の先生に憧れを持ち、いつか私もこどもと関わる仕事に就きたいと思っていました。



SEIREI Christopher Event Report!

2012年11月3日(土)、聖灯祭とホームカミングデーを開催しました。
 在学生、卒業生、教職員のみならず、お子様からご高齢の方まで、
 大勢の地域の皆様に来学いただき
 大変盛り上がりを見せた一日となりました。

Report 1 聖灯祭

聖灯祭を振り返って

聖灯祭実行委員長
 リハビリテーション学部 2年次生 山崎 耀太 / 看護学部 2年次生 池田 愛美

はじめに、聖灯祭にご来場くださいました皆様、そしてご協力いただきました皆様方に厚く御礼申し上げます。そして実行委員のみなさん本当にお疲れ様でした。
 本年度のタイトル「夢～叶えよう～」は、本学から大学祭という形で日本にエネルギーを発信していければと思いい実行委員で決定させていただきました。今年は何年以上に来場された方が多く、たくさんの方に本学の

エネルギーを感じていただけたのではないかと考えています。自分たち自身も終了時には大きな達成感を感じることができ、最高の形で今年度の聖灯祭を締めくくることができたと思っています。
 来年は今年以上の盛り上がりになるように後輩たちの力を信じています。そしてまた皆様のお力添えの程よろしく願いいたします。



実行委員長の山崎くん(右)と池田さん(左)

Report 2 ホームカミングデー

2012年3月をもって、本学の卒業生・修了生の数は10,000名を超えました。ホームカミングデーは短期大学、ヘルパー学園、専門学校、大学学部・大学院すべての卒業生・修了生の皆様に母校に戻り、本学の現在の様子を知っていただきたい、同窓生や先輩・後輩と旧交を温め、また教職員と交流していただきたいと考え開催し、今年で6年目を迎えました。聖灯祭と同日で開催し、407名の卒業生・修了生にお越しいただきました。



受付の様子

ウェルカムセレモニー

在学生ブラスバンドサークルのファンファーレで華やかに始まったウェルカムセレモニーでは、小島操子学長より歓迎のあいさつ、生座本磯美ホームカミングデー実行委員長(聖隷学園浜松衛生短期大学2科3期生)のあいさつ、就職部長・理学療法学科長の金城昌平教授より卒業生に対する感謝の言葉が述べられました。



ブラスバンドサークルによる歓迎の演奏



小島操子学長
 生座本磯美
 ホームカミングデー
 実行委員長



就職部長
 大城昌平教授

領域(学部)ごとの交流会・勉強会

看護系、社会福祉系、リハビリテーション系の領域(学部)ごとに分かれて開催した交流会・勉強会では、それぞれにテーマを設け、学年・世代を超えて様々な情報交換をしました。

■ 看護系



パネルディスカッション
 『聖隷学園での看護教育の過去・現在・未来』



講演『助産師活動の実情と未来展望』



旧短期大学部校舎の前
 で記念撮影

■ 社会福祉系



社会福祉
 『マネジメントを考える』



介護福祉『介護に関する事例検討会』



こども教育福祉『新入職員としての今を語り合う』

■ リハビリテーション系



理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科合同での症例検討会

健康祭

看護、社会福祉、リハビリそれぞれの学部学科の特徴を生かしたブースを設ける健康祭は聖灯祭の一番の見どころです。参加した皆様に体験してもらいながら健康について楽しく学んでいただくことができました。



看護学部: 血圧測定体験



社会福祉学部: 高齢者体験スーツの試着



理学療法学科: 体力検査



作業療法学科: 機織り体験



言語聴覚学科: 検査体験

サークル企画・演奏会など

学生たちは実習や授業などで忙しい学生生活の合間を縫って練習したパフォーマンスを披露しました。



茶道部 演劇サークル 琴サークル

模擬店

サークルや有志の学生による模擬店や近隣施設の方によるバザーなど多数出展され大盛況でした。



お昼時はどの店も行列に バドミントンサークルPANPA: 豚井



保健福祉実践開発研究センター主催 “地域と歩む” ラウンジ

聖灯祭同日、2011年度に実施された地域貢献研究事業*のポスター報告をラウンジ形式で行い、多くの方々に本学の地域貢献研究事業を知っていただくことができました。社会福祉学部の店村真知子准教授と本学看護学部卒業生の伊藤ちささんによるヴァイオリンコンサートの時間には多くの来場者が足を止め、美しい音色に聞き入っていました。



*地域貢献研究事業: 保健福祉実践開発研究センターが本学周辺地域の保健医療福祉分野に貢献する研究や事業を対象として配分する「地域貢献研究事業費」により実施された研究事業

締めくくりにはパーティを行いました!!

オークラアクティビティホテル浜松にて行われたパーティでは、幹事年度となる卒業生実行委員の方々が作成した懐かしい写真を集めたスライドショーやクイズなどが行われ、会場は大いに盛り上がりました。1971年度に聖隷学園浜松衛生短期大学を卒業された方から今年3月に卒業・修了された方までが一堂に会し、同期やお世話になった先生と再会し、旧交を温めていました。
 本学は10,000名を超える保健医療福祉の専門職者の卒業生の方々に支えられています。実習場での在学生への指導や就職支援行事へのご参加、卒業生の就職先で

の高い評価が在学生への採用につながることも多く、また就職先に先輩方がいることが新人の安心感となるなど、様々な場面で後輩を支えていただいています。



学 生 支 援

保護者の皆様へ

本学には、学生支援制度としてアドバイザー制度とオフィスアワーがあります。アドバイザー制度では、教員が一定数の学生を受け持ち、学習のこと、大学生活のことなど相談にのっています。教員は学生向けのホームページの中で、学生の相談にのるためのオフィスアワーを設定・開示しており、その時間帯には学生は遠慮無く教員の研究室を訪ねて優先的に話をすることができます。もちろん、それ以外の時間でも教員を訪問しても構いません。

また、本学には、学生相談室があり、そこには

3名の相談員がおり、月～金に常駐して学生の相談にのっています。さらに、必要な場合は、2名の臨床心理士等の資格を持つカウンセラーが対応をしています。こうした大学での対応と同時に、保護者の皆様にもお願いをいたします。ご子弟が、今、何かに悩み、何かに困っていないか、心を打ち明けて話をしてみる時間をご家庭の中で作って頂けると幸いです。どうぞよろしくお祈りいたします。

学生部長 鮫島 道和(看護学部教授)

学生相談室より

学生相談室では、学生の皆さんが学生生活を送る中で直面する人間関係や自分の性格などの心の問題や精神・身体などの心身の健康について「どのような問題でもひとりで抱え込まず、一緒に考えていく」支援を行っています。来室は、学生の自由です。

臨床心理士等による個別のカウンセリングは、予約制(1人50分)で、授業や実習予定に合わせ、時間が空いていれば、当日でも受け付けています。カウンセリングには守秘義務があり、相談内容は守られますが、リストカット・自殺・DV・ストーカーなど自傷他害などの危機対応が必要な場合は、教職員やご家族へ協力をお願いしています。

学生相談室は、学生のみが利用する所ではありません。直接かかわるアドバイザーや実習担当の先生方と互いに情報交換しながら、保護者の皆様も含め、良い支援を目指したいと考えています。

学生相談室

場 所 5号館1階 健康管理センター隣
開室時間 月曜日～金曜日 [10:00～17:00]
 ※相談員常駐/臨床心理士による
 カウンセリングは、水曜日と金曜日
電 話 053-436-3016
メー ル soudanrm@seirei.ac.jp
ホー ム ペー ジ



在学生のキャンパスライフをリアルタイム更新中!

学科ブログ・WEBページをご覧ください

学科ブログ・WEBページでは、授業・実習やイベントの様子などを学科に所属する在学生や教員自らが紹介をしています。写真を多く交えた内容になっており、学生生活を垣間見ることができます。ぜひご覧ください。

携帯電話・スマートフォンからも閲覧できます!

大学ホームページ <http://www.seirei.ac.jp/>

トップページの各バナーをクリック

社会福祉学部	社会福祉学科	リハビリテーション学部	理学療法学科
	介護福祉学科		作業療法学科
	こども教育福祉学科		言語聴覚学科



2012年度 保護者懇談会の報告

保護者懇談会は、保護者の皆様と大学とのコミュニケーションの場として、保護者の皆様に大学にお越しいただき、教育環境や教育の現状、目的、課題などについて話を聞いていただくとともに、学業や学生生活、就職、健康面などについて教職員に直接相談して安心いただくことを目的として聖隷クリストファー大学後援会の協力を得て学部ごとに開催しています。参加いただいた保護者の皆様にはアンケートにお答えいただき、ご意見やご要望を伺い、翌年度の保護者懇談会にできるだけ反映させ、より有意義な会になるよう努めています。

■今年度の開催状況

学 部	開催日	参加者数	
社会福祉学部	2012年7月14日(土)	社会福祉学科(専攻)	41組 53名
		臨床介護福祉学科(専攻)	18組 24名
		こども教育福祉学科	58組 72名
リハビリテーション学部	2012年10月13日(土)	理学療法学科(専攻)	59組 84名
		作業療法学科(専攻)	53組 70名
		言語聴覚学科(専攻)	39組 48名
看護学部	2012年10月27日(土)	看護学科	166組218名



昼食を兼ねた和やかな懇談会(社会福祉学部)



教員紹介(リハビリテーション学部)



校舎見学:教員による実習室の案内(看護学部)

プ ロ グ ラ ム

懇談会・説明会(学科全体、学年別・専攻別)

昼 食

個別相談・校舎(実習室等)見学

※懇談会の形式や見学でご案内する実習室は学部ごとに異なります。

■2013年度保護者懇談会日程[予定]

学 部	日 時
社会福祉学部	2013年7月6日(土)
リハビリテーション学部	2013年10月12日(土)
看護学部	2013年10月26日(土)

詳細が決まり次第、ご案内状をお送りいたします。この機会にぜひご来学ください。

今年も大変多くの方にご参加いただきました。ありがとうございました。

保護者の皆様へお知らせ

保護者満足度調査アンケートご協力をお願い

12月下旬、大学後援会より全学部学生の保護者宅へ「保護者満足度調査アンケート用紙」を送付いたします。大学の改善・改革に繋げるため、是非回答にご協力いただけますようお願いいたします。なお、郵送によるメ切は1月18日(金)、インターネット回答のメ切は1月20日(日)です。大学1号館1階総務部前にも回収BOXを設けています。本調査は無記名で行います。忌憚のないご意見をお寄せください。

今年度の卒業式・卒業パーティは3月12日(火)に行います

「2012年度卒業式・修了式」はアクトシティ浜松中ホールにて、「卒業パーティ」はグランドホテル浜松にて、3月12日(火)に行います。卒業生・修了生の保護者の皆様には追ってご案内状をお送りいたします。たくさんの保護者の皆様のご出席をお待ちしております。

訃 報

本学リハビリテーション学部の開設時から長年に亘り理学療法学科の教育にご尽力いただき、在職中には大変お世話になりました吉川卓司先生が、かねてより病氣療養中のところ2012年9月20日聖隷ホスピス(聖隷三方原病院)におきましてご逝去されました。

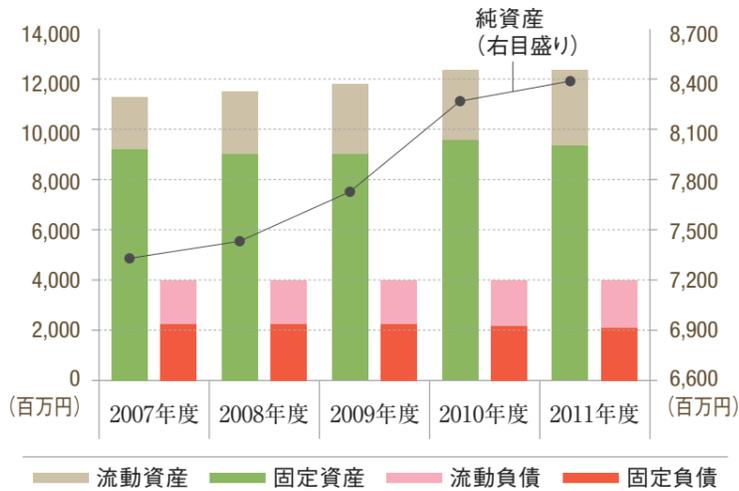
吉川先生は2004年に本学リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法専攻(現在の理学療法学科)専攻長、教授として就任され、大学院リハビリテーション科学研究科、博士後期課程保健科学研究科の研究指導教員もお務めいただきました。

吉川先生に感謝するとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

2011年度決算における財務状況の概要

- 1 法人全体として、中長期経営計画に基づいて事業が進められており、財務状況も2011年度学園全体の収支(帰属収支差額)がプラス3.7%と中長期財務計画を上回って改善しています。
※帰属収支差額は損益計算書の当期利益にあたります。
- 2 2011年度末において、総資産123億4000万円に対し有利子負債が19億7200万円となりました。土地取得・校舎建設など設備資金の借入による負債の割合が高いものの、総資産の68%は自己資金で賄われており、財務の安定性には十分な余力があります。また、借入金には現在のキャッシュフローにおいて最短約4年半での全額返済が可能であり、十分な返済能力を備えています。
- 3 大学の収支は、当期の特殊要因である第一体育館の解体費用および資産処分差額を考慮すれば安定した状況を継続しています。開設初年度となった認定こども園の収支もプラスとなっています。中・高等学校は渋谷教育学園との連携による6ヶ年一貫教育を推進しており、収支も改善に向かっていきます。

■資産・負債の推移



経営判断指標に基づく 学校法人経営状態の区分

日本私立学校振興・共済事業団では、学校法人の経営状態を指標により14の区分に分類しています。2011年度決算についてこの指標による判定の結果、本学園は上位から3番目のA3ランク(正常状態)に分類され、財務状況は正常な状態にあります。

今後も単年度毎の教育研究環境の改善を図ると共に、中長期経営計画の推進に向けた財務環境作りを行います。

詳しくは学園ホームページ(<http://www.seirei.ac.jp/gakuen/>)の財務計算書類、事業報告書をご覧ください。

聖隷クリストファー中・高等学校

ノーベル物理学賞受賞者 小柴昌俊先生講演会 —宇宙、人間、素粒子—

9月15日、ノーベル物理学賞受賞者小柴昌俊先生をお招きして講演会を行いました。先生が理事長をされていらっしゃる平成基礎科学財団設立の経緯、基礎科学研究の大切さ、楽しんで学ぶことの大切さ、また素粒子とは何か、素粒子から宇宙までの連続性、ビッグバン直後からの宇宙の生成過程、カミオカンデ(kamiokaNDE)とは、失敗を恐れず一生懸命物事に取り組む体験の大切さなど、ユーモアを交えてわかりやすくお話いただきました。質疑応答では、物理学をめざした理由、子育て論などもお話いただきました。



講演中の小柴先生

最後に生徒代表が謝辞・感想を述べ講演会は終了しました。

ロンドンパラリンピックメダリスト来校

聖隷クリストファー高等学校卒業生で今夏のロンドンパラリンピック水泳銅メダリストの鈴木孝幸さんが、9月29日に来校し、生徒にお話をしてくださいました。

鈴木さんは在学時の2004年アテネ、2008年北京に続き3大会連続でパラリンピックに出場され、今回は150m個人メドレーと50m平泳ぎで銅メダルを獲得されました。鈴木さんは「一度やめた水泳を高校で再開し、大学を出て社会人となる今まで続けてこられた。壁にぶつかりながら頑張って、課題を見つけ乗り越えてきた。皆さんも聖隷という場でアンテナを広げ、やりたいことを発見し、それに打ち込んで欲しい」と語られました。生徒たちは身近に鈴木さんに接して、感激の様子でした。



教室でお話をされる鈴木孝幸さん(右)

アジア学院との交流

11月8日、栃木県那須塩原のアジア学院の研修生が来校し、交流会を開きました。高等学校では、研修生と英語でのグループディスカッションやプレゼンテーションを行い、英語で日本の妖怪の説明や日本の習慣を寸劇を交えて紹介しました。中学校では、福笑い・こま・あやとりなど、各班で考えた遊びを英語を交えて一緒に楽しみました。最後に、研修生1人ひとりの名前を漢字に直し、色紙に書いてプレゼントしました。



生徒からプレゼントを渡しました

長期留学生をお迎えしました

9月よりアメリカ、フランス、ドイツ、ベルギー、ロシアから計5名の長期留学生が高等学校1・2年生のクラスに通学しています。日本語はまだこれからですが、皆、臆することなく、非常に積極的に生徒たちの輪の中に入っています。来年6月の帰国の頃には、5名とも遠州弁を流暢に使えるようになっていくことでしょう。



写真左からヘニング君(ドイツ)、アリーさん(アメリカ)、レブ君(ロシア)、ルトガー君(ベルギー)、オードリーさん(フランス)

フェイスブックページを開設しました!



写真や動画を通して、生徒たちが生き生きと学校生活を送る様子をご覧ください。

中・高等学校ホームページ [<http://www.seirei.ed.jp/>] ⇒ トップページのバナー をクリック



聖隷クリストファー 大学附属



クリストファーこども園 総園長
聖隷クリストファー大学 社会福祉学部
こども教育福祉学科長・教授

太田 雅子

大学生と一緒に積み木あそび

こども教育福祉学科2年次生が「保育内容総論」の授業の一環で、子どもたちと一緒に積み木あそびを行いました。子どもたちの主体性やイメージを尊重することに気をつけて、子どもたちの作りたいもの、表現したいものが実現できるように学生たちは手助けをしました。子どもたちは学生とのやりとりをとて楽しんでいました。こども園で使用している積み木はフレール理論をもとに和久洋三氏がデザインしたもので、法則性がある品質の高いものです。

建物等を作りながら、構造的に理にかなったものには調和的な美しさがあることを、子どもたちに発見して欲しいと願っています。



プレイデーの実施

10月6日に3~5歳児は、初めて聖隷クリストファー中・高等学校のソフトボール場でプレイデー(運動会)を実施しました。今年度のテーマは「オリンピック」。一人ひとりが日頃の遊びの中で興味を持ち、自分から一生懸命に取り組んだことをプレイデーに繋げ、披露するというプログラム内容でした。自分なりの目標に向かい勇気をもってチャレンジしたり、最後まで諦めなかったことで、全員が金メダルをもらいました。0~2歳児は10月20日に園庭において、ご家族との触れ合いを持ったたり、お気に入りのゲームに夢中になったり楽しいひと時を過ごしました。



動物園への遠足

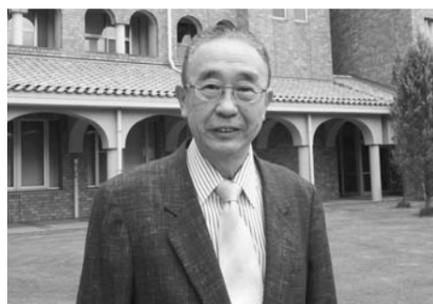
11月7日に3~5歳児全員が浜松市動物園に遠足に出かけました。5歳児はカンガルーに餌を与える体験をしました。ヒツジ等の動物との触れ合いコーナーでは恐るおそる近づき、大丈夫だとわかると楽しむ姿が見られました。一番の楽しみはお弁当!日頃は園のキッチンで作る給食を食べるため、保護者の皆様の心が込められた手作りのお弁当がどの子にとっても大変うれしかったようです。その後、感動したことや印象に残ったことをクラスで話し合い、絵を描きました。ゴリラの大きな背中、柔らかそうな毛並のレッサーパンダ等ユニークな作品ができました。



連載 私の教育・研究

長寿の時代を生きぬく
知恵と支援

社会福祉学部 臨床介護福祉学科 教授 ^{なぐら} 奈倉 ^{みちたか} 道隆



◆学歴：京都大学医学部医学科卒業／博士(医学)
◆所属学会：日本老年学会、日本医学哲学・倫理学会、日本介護福祉学会 他

Q1, 先生の専門分野について教えてください

A, 私は、すでに78歳の高齢者です。寿命が長くなった現代を、幸せに生きるにはどうすればよいか、ということ、「老い」を探求する老年学、老年期の健康の回復・保持を目的とする老年医学、要支援者の生活を充実させる介護福祉学の立場から探求しています。

もともと老年内科の医師として、京都大学病院で医療の実践と研究をしていました。その中で、高齢者の健康問題は生活問題・精神的問題と深く結びついているということに気づき、社会福祉、カウンセリング、宗教的支援の方法などを学びました。これらを統合する「高齢者の総合的支援」が現在の専門です。最近、介護福祉士の資格を取得し、介護福祉学を基盤に据えています。

Q2, 大学院ではどのようなことをテーマにしていますか？

A, 支援が必要な高齢者や障がいを持つ人たちが、健全な人と同じように主体的に生活し、生きがいがあるよう、個々の人の社会環境を充実させ、本人の生活意欲が高まるように、心身両面から支援するのが介護福祉です。これを実践する原理をテーマにしています。

そして、福祉的な生活支援は、介護福祉単独でなくソーシャルワーク・医療・カウンセリング・宗教的支援などと協力し合うことで、よりよく達成されます。そのため他の領域の支援法を深く理解し、総合的支援に発展させる必要があります、これもテーマにしています。

Q3, 現在取り組まれている研究について教えてください

A, 成人が主な対象であった従来の医療や社会福祉は、患者を治療させ健康にすること、自立生活を回復させることなどが目標でした。後期高齢者が増加する今後は、疾患を持ちながらも健やかに生きること、本人の自律を尊重する親族などとの交流を保ちつつ社会的支援を活用して、かけがえのない生涯を安らかに全うすることなども目標とされるでしょう。

この新しい要望にこたえて、認知症を持つ人が、できるだけ長く社会の一員として親しい人と交わりながら心豊かな生活が営めるような支援方を、認知症の人と家族を支える活動および相談を通して、探索しています。

また、人生の終わりを迎えられる方々が、今日まで生き抜いた人生の意味に目覚め、あるがままの自分を受け入れながら旅立てる終末期介護福祉の在り方を、聖隷ホスピスのボランティアをしながら、宗教的支援とも関連づけて探究しつつあります。このような教育や研究ができる環境にある聖隷クリストファー大学の一員であることを喜んでいます。



研究の一環として、聖隷ホスピスにてボランティアをしています

2012年度科学研究費補助金 採択結果

科学研究費補助金は、人文・社会科学から自然科学までのあらゆる分野で、独創的・先駆的な研究を進展させることを目的とする文部科学省の研究費補助金であり、公募型研究助成制度としては国内で最大規模の制度です。本学でも科学研究費補助金獲得に向けた様々な取り組みをしており、2012年度は継続課題20件の他、新規に8件の研究課題が採択されました。

2012年度の科研費配分額は全国私立605大学中149番目となっており、医学部・薬学部を有しない医療・福祉系大学の中ではトップクラスの成績となっています。

区分	学部	領域・学科	職位	氏名	研究種目※	研究課題
新規	看護学部	基礎看護	教授	藤井徹也	萌芽	特定看護師へのクラウド型Advancedフィジカルアセスメント教育ツールの開発
		成人看護	准教授	森本悦子	基盤(C)	内服抗がん剤治療を受ける患者のセルフケアを促進する外来看護援助プログラムの開発
			助教	小池武嗣	萌芽	離島で働く保健師の現状とネットワーク形成の意義
		母性看護	助教	室加千佳	若手(B)	NICU退院児の在宅移行看護モデルの考案
		養護教諭	准教授	成松美枝	基盤(C)	アメリカの大学における教師教育改革の実証的研究
		専攻科	教授	濱松加寸子	基盤(C)	潜在助産師を活用した早期家庭訪問モデルの開発
リハビリテーション学部	理学療法	教授	大城昌平	基盤(C)	早産児の「発達ケア」モデル構築とその効果に関する研究	
	作業療法	助教	建木 健	若手(B)	脳損傷者の自動車運転再開プログラムの開発	
継続	看護学部	基礎看護	准教授	篠崎恵美子	基盤(C)	臨床看護師のフィジカルアセスメントスキルを向上させるバーチャル教材のシステム開発
			助教	炭谷正太郎	若手(B)	新人看護師の血管確保成功率が向上する技術トレーニングプログラム
			助教	梶原理恵	萌芽	離職行動に影響する因子としての看護師の組織文化の捉え方の分析 一価値基準との比較
		成人看護	助教	藤浪千種	若手(B)	手術を受けた高齢の胃がん患者への教育支援プログラムの開発
		老年看護	准教授	梅本充子	基盤(C)	地域在住高齢者における音や匂いを刺激とする新たな手法の回想法の効果
		母性看護	准教授	黒野智子	基盤(C)	妊娠期から継続的に行う父親のための母乳育児支援教育プログラムの開発
		精神看護	准教授	入江 拓	基盤(C)	里親不調による里子との離別を体験した里親のメンタルヘルスとそのケアに関する研究
			准教授	小平朋江	基盤(C)	精神看護学教育のための総合失調症の奮闘記の分析
			准教授	簗 宗一	若手(A)	精神科看護師を介在した児童・思春期のメンタルヘルス教育の開発に関する研究
		地域・在宅看護	教授	酒井昌子	基盤(C)	非がん高齢者終末期ケアへの介入タイミングを支持するアセスメントツールの検討
				講師	山村江美子	基盤(C)
			助教	伊藤純子	若手(B)	難病患者家族の社会的孤立に介入するウェブ交流モデルサイトの開発
				岩清水伴美	基盤(C)	保育者の認知的スキルを強化する虐待予防・支援技術向上プログラム開発に関する研究
		養護教諭	教授	長峰伸治	基盤(C)	思春期・青年期の自閉症スペクトラム障害者の対人交渉スキル支援プログラムの開発
助教	高橋佐和子		基盤(C)	大学生の大麻等薬物乱用防止教育プログラムの開発		
社会福祉学部	社会福祉	教授	横尾恵美子	基盤(C)	管理職の意識が労働環境に及ぼす影響：介護従事者の離職を防ぐための管理職のあり方	
		准教授	福田俊子	基盤(C)	専門家としての自己生成プロセスにおける「痛みを伴う臨床体験」がもつ意味の探究	
リハビリテーション学部	言語聴覚	助教	池田泰子	基盤(C)	幼児を対象とした発達性読み書き障害児のスクリーニングテストの開発	
聖隷浜松病院	臨床教授	勝原裕美子	基盤(B)	国民と看護のインターフェイスとしての看護指標開発とベンチマークシステムの構築		
聖隷三方原病院	臨床准教授	山崎律子	基盤(C)	「新人」から「一人前」看護師への移行期を支える学習支援システムの構築		

※ 科学研究費補助金の研究種目

基盤研究

1人又は複数の研究者が共同して行う独創的・先駆的な研究(期間3~5年)。

応募額によりA・B・Cに区分

- (A) 2,000万円以上5,000万円以下
- (B) 500万円以上2,000万円以下
- (C) 500万円以下

若手研究

39歳以下の研究者が1人で行う研究(期間2~4年)。

応募額によりA・Bに区分

- (A) 500万円以上3,000万円以下
- (B) 500万円以下

挑戦的萌芽研究

独創的な発想に基づく、挑戦的で高い目標設定を掲げた芽生え期の研究(期間1~3年)。

1課題500万円以下

在学生が考案した学食新メニューの販売を開始しました

毎年実施している在学生満足度調査において「学食のメニューが少ない」等の声が寄せられていたことからメニューの充実を図ることを目的とし、大学後援会と学生食堂(株式会社日京クリエイト)の協力を得て、「在学生考案の学食新メニュー開発」の企画を実施しました。企画に先駆け7月には全学部生対象に食堂満足度および新メニューの希望についてアンケートを実施しました。有志で集まった在学生の「学食特派員」が、寄せられた250件もの意見を参考に、これまでに無かった

新しい学食メニューの企画をしました。新メニューは12月初旬から随時販売を開始しています。



※写真のメニューは一例です



10月に試食会を実施しました

新メニュー

- 1 ヘルシーセット(600kcal以下) .. 350円
〔メイン料理・麦ごはんor雑穀米・味噌汁〕
- 2 韓国グルメセット 370円
〔韓国風メイン料理・キムチorサラダ・白米〕
- 3 餃子定食 370円
〔餃子7ヶ・中華スープ・白米〕
- 4 焼きそば 250円
〔ソース味or塩味orあんかけ〕

※食数限定で販売する場合があります

国際交流

アメリカ看護研修を実施しました

8月7日～20日、ネブラスカ州リンカーン市で実施したアメリカ看護研修に看護学部3年次生8名が参加しました。ネブラスカ州での本研修は看護学部の前身である聖隷学園浜松衛生短期大学時代の1997年に始まり、数ある本学の海外研修・実習の中で最も歴史あるプログラムです。参加学生は英語に苦労しながらも、講義や医療施設見学、そしてナースシャドーイングを通して看護先進国と言われるアメリカの看護について幅広く学び元気に帰国しました。この秋の臨地実習にもアメリカでの経験が活かされることでしょう。



ブライアン総合病院ドクターヘリの前で

シンガポールから実習生が来学しました

9月15日～26日の間、本学の交流協定締結校であるシンガポールのナンヤン理工学院(NYP)から2名の作業療法学科生が実習の為に来学しました。NYP作業療法実習生の受け入れは今年度で5回目となり、今年は聖隷浜松病院リハビリテーション部および浜松市根洗学園の協力を得て行われました。学内では講義やキャンパスツアーのほか、本学リハビリテーション学部作業療法学科の学生との交流会が行われ、同じ専門職を目指す学生同士、学生生活について話したり古くからの日本の遊びを紹介したりするなどして交流を楽しみました。また、週末には本学学生宅でのホームステイを体験し日本の生活文化への理解を深めることができました。



聖隷浜松病院での実習



在学生との交流会

学報へのご意見・ご感想をお寄せください

読者の皆様のご意見を参考に、より充実した内容をお届けできればと考えております。ご協力お願い申し上げます。

学報アンケート

<http://blg.seirei.ac.jp/d/>

